教育相談（事例）

不登校を克服した事例

教育相談部　**藤本　忠平**

1. 主訴　　不登校

2. 対象　　A子　　中学校2年生（女）

3. 問題の概要

A子は，中学2年になった4月初めごろから，頭痛や腹痛で学校を早退する日が多くなった。養護教諭は，本人から，よく眠れなくなり，朝起きると頭が重く，吐き気がしたりすると訴えられたので，学級担任と相談の上，医師の診察を受けるようすすめた。

診察の結果，身体的には異状がないとのことであった。しかし，A子は，その後も回復せず，起床が次第に遅くなり，ふとんを頭からかぶって起きない日が多くなった。そればかりか，起こそうとする母親を突き倒したりするようになり，5月以降，登校しなくなった。

4. 資料

(1) 身体的特徴

分娩は正常，主に祖母が育児にあたり，人工栄養で順調に成長したが，かぜをひきやすい。

(2) 知能・学業

知能偏差値53，幼稚園時代に登園をしぶったことが時々あった。学業成績は普通であるが，中学になってから下がり気味である。体育が苦手で，体育の授業になると保健室で休む場合が見られた。

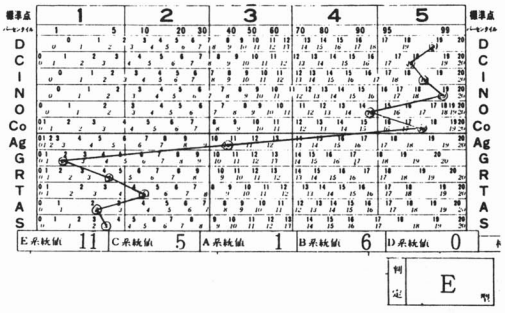
(3) 交友関係

小学校時代は，おとなしいためいじわるされたことがあった。いつもためらいがちで，親しい友人ができなかった。中学1年の終りごろ，皆と一緒に行動しないという理由で，女子のツッパリグループから暴力を受けたりした。

(4) 性格・行動

小学校6年まで爪かみが見られた。いつも，素直でおとなしいが，ためらいが多く，引っ込み思案な面が母の気に入らず，度々，叱られるので不案になり，母を避けるようになった。

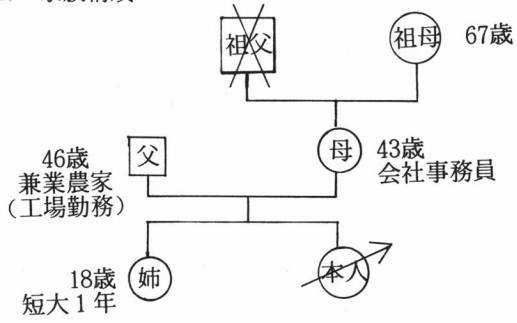
ＹＧ性格検査プロフィール



この検査では，情緒不安定，社会的不適応，非活動的，非主導的な傾向が強いという結果が得られた。従って，A子は，抑うつ状態にあって，情緒も安定せず，学校生活に適応できないで，一人じっとしている傾向が表われている。

また，不安傾向診断検査（ＧＡＴ）の結果をみると，孤独傾向，自罰傾向のほか，特に対人的不安傾向が強いなどの特徴がみられる。対人不安が強いと人前に出ることを避け，ささいなことでも気になり，叱られるといつまでも悩む場合が多い。

(5) 家族構成



入婿の父は，農業のかたわら，工場に勤務している。一人娘として育った母は，親類の会社の事務員をしており，勝気で口やかましい。姉は，母に似て社交好きで活発な短大1年生である。祖母は，口達者で家の中では，事実上の家長的な存在である。